

蝶々記念館

(箕面市)

35

ザ・見遊じあむ

自宅をそのまま公開してオープンした
「蝶々記念館」



箕面市の閑静な住宅街の一角に、2000年に80歳で死去した喜劇女優・ミヤコ蝶々さんの自宅を改装した「蝶々記念館」が2008年5月24日にオープンしました。玄関には本名の「日向」の表札がそのままかけられています。

人気長寿TV番組だった『夫婦善哉』の収録で実際に使用していたのれんを展示している1階の和室。のれんをくぐると続き間の和室には、父英次郎と共にミヤコ蝶々が祭られた仏壇があります。記念館を訪れたファンの人たちが手を合わせていました。

生前の生活していた状態のまま保存された蝶々さんの部屋や写真約100点、

大阪の生んだ喜劇女優の生涯

衣類が計500点以上、宝石や腕時計、メガネなどが約100点あまり展示されています。部屋の片方には着物が整然と棚に収納されており、それらはアルバムに収容され、全ての着物や帯が自由に閲覧できるようになっています。部屋や廊下、踊り場に掲示されている多くのポスターや写真に

日付や説明がないのが残念です。

館長を務める蝶々さんの義弟・日向利一さんは「展示物はいれ替えながらやっていく。多くの人にのんでいただければ」と語っています。道頓堀の松竹座での10月公演は『女ひとり』で、ミヤコ蝶々物語を上演します。ミヤコ蝶々を演じるのは、沢口靖子さんで、相手の南都雄二役は風間トオルさんです。

ミュージアムメモ

▶所在地／〒562-0046 箕面市桜ケ丘1-10-43▶交通／阪急電車箕面線 桜井駅又は牧落駅下車、徒歩15分▶開館時間／10時～17時▶休館日／水曜日▶入館料／大人1000円、中・高校生500円 中学生以下は無料です▶問い合わせ／☎072-723-2001



『ハムナプトラ3／呪われた皇帝の秘宝』

『ハムナプトラ』シリーズの第1作は1999年、第2作が2001年、そして今回は7年ぶりの第3作です。前回までのエジプトから、今回は中国を舞台にしています。このあたりは今夏の北京オリンピックにタイミングをあわせたという感じがします。8月8日のあの壮大、華麗な開会式を見ると、この映画のシーンとだぶって見えてきます。

第1作の冒険で結ばれた、歴史・探検家のリックとエヴリンのオコンネル夫妻と、息子アレックスが、2000年の時を超えて生き返った中国

の皇帝のミイラ（秦の始皇帝を連想させます）と戦います。ハリソン・フォードのインディ・ジョーンズをもっと破天荒の劇画にしたようなアドベンチャーシリーズ。馬車対クルマの追撃チェイス、砂漠でのスペクタクル、ヒマラヤ山脈の断崖絶壁で繰り広げられるバトルシーンなど、アドベンチャー活劇らしいアクションが満載です。

もともとの第1作の原題は「THE MUMMY」（ミイラ）で、「ハムナプトラ」は第1作にでてくる死者の都の名前でした。

中国を舞台に蘇る皇帝と兵馬俑

このシネマ

ガレいナ

大阪の戦跡を歩く

第34歩

砲兵工廠・化学分析場跡

(大阪市中央区)



今も、レンガ造りの建物が残る化学分析工場跡

終戦の前日、1945(昭和20)年8月14日、13時16分から14時1分の約45分間にわたって、大阪上空に飛来した米軍のB29爆撃機は145機、高度6700～7700メートルの上空から、東区(現中央区)、城東区を空襲しました。

この空襲で現在の大阪城公園一帯にあった一大軍需工場大阪陸軍造兵廠(砲兵工廠)は全滅しました。被災戸数は1,843戸、被災者数2,967人、死者は359人、重軽傷者33

人、行方不明79人と記録されています。砲兵工廠の建物で、空襲をくぐりぬけて現存しているのが化学分析場です。1919年(大正8年)に建てられた左右対称のネオルネサンス風赤レンガ2階建てで、のべ面積は1887平方メートル。著名な建築家、置塩(おしお)章氏の設計になる重厚な建物で、ここで新兵器の開発・研究や化学実験などが行われていました。1987年まで自衛隊連絡部庁舎として使われていました。

「おまえが都鳥という名をもっているなら、京の都にいる私の恋しい人はどうしているかおしえてくれという意」。『伊勢物語』の主人公であるとされている平安時代の歌人・在原業平の作といわれています。この歌が、東京都墨田区の隅田川と吾妻橋付近を詠んでいることから、付近には在原業平にちなんだ業平橋、言問橋などがあります。都鳥はユリカモメをさすといひます。ユリカモメはカモメ科で夏に繁殖し、日本では冬鳥として全国の海岸や河川、沼地などに渡来します。全長約40cm。足とくちばしは赤色。

名にし負わば

いざ言問はむ都鳥

わがおもふ人はありやなしやと
在原 業平

いまも心に響く
名詩・名歌・名語録

大阪・梅田新道の北東かどのあたり、住所でいえば大阪市北区曽根崎二丁目、露天神社(つゆてんじんしゃ)があります。鳥居の前まで飲食店が集まっており、一般的には「お初天神」の通称で広く知られています。祭神は少彦名大神と菅原道真。社伝によれば、この地はかつて曾根崎洲という大阪湾に浮かぶ孤島で、そこに「住吉住地曾根神」を祀っていたとされ、創建は西暦700年ごろといひます。露の名は、菅原道真が太宰府へ左遷される途中、ここで都を偲んで『露と散る涙に袖は朽ちにけり都のことを思い出ずれば』と詠み、涙を流したからとも、梅雨のころに神社の前の井戸から水がわき出たためともいわれています。



露天神社にある「お初・徳兵衛のブロンズ像」

1703年(元禄16)4月7日早朝に、大阪堂島新地の天満屋の女郎・はつ(21歳)と内本町の醤油商・平野屋の手代である徳兵衛(25歳)が梅田・曾根崎の露天神の森で情死するという事件が起こりました。この境内で実際にあった心中事件を題材として、近松門左衛門が人形浄瑠璃『曾根崎心中』を書き、そのヒロインであるお初(はつ)の名前から「お初天神」と呼ばれるようになりました。人形浄瑠璃『曾根崎心中』の初演は、事件後の5月7日の道頓堀にある竹本座での公演でした。近松門左衛門は『曾根崎心中』のあと、『心中天網島』をはじめ多くの作品を発表されていますが、心中ものに共感した人々の間で、心中ブームが起こりました。

いま、露天神社の境内には『曾根崎心中』のブロンズの慰霊像があり、多くの若いカップルが訪れています。夏の暑い日の夕方、この日も若い恋人同士が説明板に見入っていました。

ふるさととは遠きにありて思ふもの
そして悲しくうたふもの

室生 犀星

この詩は『小景異情』の「その二」にある詩で、室生犀星のもっともよく知られた作品のひとつです。このあと「よしや／うらぶれて異土の乞食(かたい)となるとても／帰るところにあるまじや／ひとり都のゆうぐれに／ふるさとおもひ涙ぐむ／そのころもて／遠きみやこにかえらばや／遠きみやこにかえらばや」と続きます。夏のお盆は帰省の時期ですが、ひとつの決意を込めて「ふるさとには帰るまい」という人もいます。詩人・室生犀星の故郷は金沢市。1889年(明治22年)8月1日、真夏のさなかに生まれています。